

追悼

富田平四郎先生を偲ぶ



富田平四郎先生は2024年8月7日に享年82歳でご逝去なさいました。先生は現栃木市大平町でお生まれになり、1966年に宇都宮大学農学部農業工学科をご卒業なさいました。9年間の農林省（現農水産省）勤務を経て、1974

年に宇都宮大学農学部に着任されました。当時の農林省の勤務では、いわゆる接待行政があり、お酒を全く飲めない先生はご苦労が多かったと伺いました。大学に戻られた当時は学生運動が盛んで、研究室（農業造構学研究室）の教授が学長であったこともあり、色々と苦労された、と何度となく伺いました。博士論文の題材ともなった鹿沼土の力学的特性を中心に多くの研究をなされましたが、先生は常に学生のことをご自身の後輩として、先生なりに温かく接してこられました。研究室出身の卒業生からいただいたメッセージを紹介いたします。「私が研究室で富田先生に叱られている時、富田先生は『なんだ、君は！もう窓から飛び降りろ！』と言われ、私は『先生、ここは1階です！』と返しました。叱っているときも、ユーモアを忘れていませんでした。また、講義中はもちろん日常の中で、ダジャレや、ジョークを飛ばすのが好きでした。しかし、ことジョークは、少し辛辣なものが多く笑いづかったことを覚えています。私は、2年留年し3度目の4年生の時に、先生から県庁の採用試験を受けるよう強く勧められました。『2留ですし、県庁なんて務まりません。』と私が申せば、先生は『君のようなダラシない生徒は、むしろ堅い県庁に向いている！』と、励ましているのか？良く判らないお言葉で背中を押してくれました。」先生らしさをご理解いただければ幸いです。在校生だけでなく、卒業生からも好かれている先生でした。先生と同じ同窓教員の一人として、先生のようにになりたいとは思いますが、なかなか私には至難の道です。ところで、先生は常にお酒が飲めないと仰っておりましたが、先生と二人で奥只見ダムに旅行に行った際には小さなビール缶で晩酌をしたのはいい思い出になっています。

最後になりますが、先生のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

（平3開卒 笠井 大輔・平6開卒 松井 宏之）

追悼

志賀 徹先生を偲ぶ



志賀 徹先生は、令和6年9月26日にご病気のため享年76歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、昭和22年12月25日栃木県に生まれ、昭和45年に宇都宮大学農学部を卒業し、九州大学

大学院へと進まれました。その後、平成25年3月に宇都宮大学を定年退職されるまで、農業施設分野、営農技術学分野、生物環境制御工学分野と一貫して生産からポストハーベスト分野の農産物や食品の品質評価・保持に努められました。また、志賀先生は平成11年には農業施設学会の理事・会長を、平成23年から農業機械学会の理事および関東支部長を勤められました。

研究室において、先生は常に学生自身と真摯に向き合い、きめの細かい指導を実践してこられました。その証として、200名以上の研究者、技術者を社会に送り出し、多くが農業の基盤に「営農」があるとする実学を尊び活躍しています。私から拝見します志賀先生は、親分肌というより、1人1人の個を大事に、尊重されるお人柄が印象的で、誰からも愛されていたらしやいました。

また、先生の定年後や普段のお姿にも触れたいと思い、先日、ご自宅に伺い、奥様、ご長男とお話しさせていただきました。8月末に、「食欲があまりない」との症状があり、検査で盲腸がん、並びに肝転移との診断がされ、自宅での緩和的な対応になりました。先生は、亡くなられる前日、「少し腰が重いね」という以外、痛みや不快な状況は無く、ご家族としても先生の死を意識することなく、たった1か月、突然の事でしたと。そして、奥様からメッセージを預かりました。「私は病気の際、あなたに命を救ってもらいました。なのに、私はあなたの状況に気づけず後悔しています。もっともっとお話ししたかった。あなたは、家庭の事、家族の事、妻の私を自由にさせてくれた事、本当に、本当に優しい人でした。ありがとう！」そして、「主人を支えて下さった皆さん、本当に有難うございました」と。

（農業環境工学科 教授 齋藤 高弘）